

## 平成25年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月15日  
上場取引所 大

上場会社名 ヒーハイト精工株式会社  
 コード番号 6433 URL <http://www.hephaist.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理部長  
 定時株主総会開催予定日 平成25年6月26日  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(氏名) 尾崎 浩太  
 (氏名) 佐々木 宏行  
 TEL 049-273-7000  
 有価証券報告書提出予定日 平成25年6月27日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成25年3月期の連結業績(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期	1,304	—	△40	—	△45	—	△38	—
24年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 25年3月期 △34百万円 (—%) 24年3月期 —百万円 (—%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
25年3月期	△6.11	—	△1.3	△1.1	△3.1
24年3月期	—	—	—	—	—

(参考) 持分法投資損益 25年3月期 —百万円 24年3月期 —百万円

(注) 平成25年3月期より連結財務諸表を作成しているため、平成24年3月期の数値及びこれに係る対前期増減率については記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期	4,166	2,989	71.8	478.84
24年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 25年3月期 2,989百万円 24年3月期 —百万円

(注) 平成25年3月期より連結財務諸表を作成しているため、平成24年3月期の数値については記載しておりません。

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
25年3月期	△66	△119	190	649
24年3月期	—	—	—	—

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0	0.0	0.0
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0	0.0	0.0
26年3月期(予想)	—	0.00	—	—	—	—	—	—

(注) 平成26年3月期の期末配当予想につきましては、未定としております。今後、予想が可能となりました段階で、速やかに公表いたします。

## 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	793	27.7	15	—	11	—	4	—	0.70
通期	1,574	20.7	40	—	33	—	19	—	3.19

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)：無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

25年3月期	6,245,000 株	24年3月期	6,245,000 株
25年3月期	1,750 株	24年3月期	1,650 株
25年3月期	6,243,279 株	24年3月期	6,243,546 株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成25年3月期の個別業績(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期	1,316	△11.7	△31	—	△33	—	△28	—
24年3月期	1,491	△6.9	34	△51.8	38	△46.9	131	239.5

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期	△4.50	—
24年3月期	20.99	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期	4,176	3,000	71.8	480.65
24年3月期	4,169	3,028	72.7	485.15

(参考) 自己資本 25年3月期 3,000百万円 24年3月期 3,028百万円

2. 平成26年3月期の個別業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	765	21.2	11	—	7	—	1.17
通期	1,532	16.4	28	—	17	—	2.82

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表及び財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しております。  
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「(1) 経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
(4) 事業等のリスク	5
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	6
2. 企業集団の状況	7
3. 経営方針	9
(1) 会社の経営の基本方針	9
(2) 目標とする経営指標	9
(3) 中長期的な会社の経営戦略	9
(4) 会社の対処すべき課題	9
4. 連結財務諸表等	10
(1) 連結貸借対照表	10
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	12
(3) 連結株主資本等変動計算書	14
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	16
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	17
(継続企業の前提に関する注記)	17
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	17
(会計方針の変更)	19
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	19
(セグメント情報等)	20
(1株当たり情報)	20
(重要な後発事象)	20
5. その他	21
(1) 生産、受注及び販売の状況	21
(2) 役員の変動	21

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

### (1) 経営成績に関する分析

#### ① 当期の経営成績

当連結会計年度における世界経済は、米国が緩やかな景気回復へと向かう反面、欧州の財政不安、中東の政治不安などで経済活動の低迷が長期化し、総じて厳しい状況で推移いたしました。わが国経済におきましては、東日本大震災からの震災復興需要により緩やかな回復が見られ、昨年後半から、為替が円安に向かい、また、国内株式市場の持ち直しがあったものの、長引く欧州債務危機や中国をはじめとする新興国経済の減速などの影響もあり、依然先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは、中国への本格的な販売を開始し、アジア展開への第一歩を踏み出しました。また、主力製品のラインアップ拡充と拡販に、営業・技術・製造の三位一体体制で今やるべきことに最善を尽くし、販売展開及び生産性の向上に努めて参りました。

しかしながら、国内メーカーの経営環境悪化に伴い受注が伸びず、当連結会計年度の業績は、売上高につきましては1,304,556千円となりました。また、損益面につきましては、顧客対応のための製品開発案件の前倒し実行等による費用増加により経常損失45,028千円となり、当期純損失は38,144千円となりました。

主力製品であります直動機器につきましては、国内需要の不振に加え、海外経済の減速を受け産業用機械業界等からの受注が減少し、当連結会計年度の売上高は1,073,805千円となりました。

精密部品加工につきましては、レース用エンジン部品及び一般受託加工の受注微増により、売上高は140,271千円となりました。

ユニット製品につきましては、電子部品業界及びスマートフォン等の液晶製造装置の販売をすすめるも、目標に届かず、売上高は90,479千円となりました。

なお、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しておりますので、前年同期との比較分析は行っておりません。

#### ② 次期の見通し

次期の見通しにつきましては、欧州債務危機を背景とした中国経済の減速や、世界経済の停滞を受け、依然として不透明な状況にあります。また、生産の海外移転の流れがすすみ、国内設備投資に関しては厳しい環境が予想されます。このような経済環境の下で、中国販売子会社の販路拡大及び、中国蘇州工場でのノックダウン生産の本格稼働を行い、引き続きスマートフォンやタブレット端末に向けた産業用機械、電子部品業界への顧客ニーズに対応し収益の確保を図ります。

次期の業績につきましては、売上高1,574,135千円（前期比20.7%増）、営業利益40,910千円（前期は40,983千円の営業損失）、経常利益33,658千円（前期は45,028千円の経常損失）、当期純利益19,944千円（前期は38,144千円の当期純損失）を見込んでおります。

## (2) 財政状態に関する分析

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における総資産は4,166,033千円となりました。主な内訳は、有形固定資産が2,040,404千円、たな卸資産が755,336千円、現金及び預金が759,566千円、受取手形及び売掛金が513,697千円となっております。

当連結会計年度末における負債合計は1,176,491千円となりました。主な内訳は、長期借入金が690,866千円、支払手形及び買掛金が216,444千円、営業外支払手形が14,048千円となっております。

当連結会計年度末における純資産合計は2,989,541千円となりました。自己資本比率は71.8%となっております。

なお、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度の連結財政状態の数値及びこれに係る対前期増減率については記載しておりません。

### ② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、649,566千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、使用した資金は66,282千円となりました。これは主に税金等調整前当期純損失45,381千円、仕入債務の減少額125,114千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は119,348千円となりました。これは主に有形固定資産の取得111,451千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、得られた資金は190,701千円となりました。これは主に長期借入による資金の増加301,000千円によるものであります。

なお、当連結会計年度より、連結財務諸表を作成しておりますので、前連結会計年度の連結財政状態については記載しておりません。

当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期
自己資本比率 (%)	69.2	71.6	71.8	72.7	71.8
時価ベースの自己資本比率 (%)	13.3	14.4	17.6	17.7	19.0
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	3.1	-	2.2	-	-
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	60.1	-	23.4	-	-

自己資本比率：自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債/営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー/利払い

(注) 1. 各指標は、財務数値により算出しております。なお、平成25年3月期より連結ベースの財務数値により計算しております。

2. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数により算出しております。

3. 有利子負債は、貸借対照表上に計上されている借入金を対象としております。また、利払いにつきましては、キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

4. 平成22年3月期は営業キャッシュ・フローがマイナスとなっておりますので、キャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオは記載しておりません。

5. 平成24年3月期は営業キャッシュ・フローがマイナスとなっておりますので、キャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオは記載しておりません。

6. 平成25年3月期は営業キャッシュ・フローがマイナスとなっておりますので、キャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオは記載しておりません。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、配当を行うことを基本方針としております。

しかしながら、当事業年度につきましては、大幅な赤字決算を計上することとなったため、誠に遺憾ながら、無配といたしました。今後の利益還元につきましては、業績の回復に鋭意努めてまいり、経営成績を勘案しながら、適宜検討していく予定であります。

#### (4) 事業等のリスク

当社グループの経営成績、財政状態及び株価に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

##### ① 直動機器への高い依存度

当社グループでは、直動機器は産業用機械装置には欠かせない要素部品であると認識しており、今後も安定的に需要が見込まれるものと推測しておりますが、将来、諸外国の安価な製品の参入により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、各産業界の工作機械をはじめとする産業用機械の設備投資需要の急激な変動によって、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ② 特定販売先への高い依存度について

当社グループ製品の販売先のうち、THK株式会社に対する当社グループの売上高に占める比率は高いものとなっております。

THK株式会社へは直動機器等を販売しており、平成2年より取引を開始して以来、長年安定した取引関係を維持しておりますが、同社の受注動向や経営戦略の如何によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ③ 知的財産権について

当社は、特許権等の知的財産権の重要性を強く認識しており、自社が保有する技術等については、特許権等の取得による保護を推進しております。しかしながら、出願した全ての知的財産権が取得できる保証はなく、また、取得したとしても、特許期間満了により他社が類似品を市場に投入する可能性があります。

さらに、一部の製造技術・ノウハウについては技術流出をさけるため、特許出願等を行わないこともあります。

そのため、他社が当社の製造技術・ノウハウと類似する特許等の取得を行った場合には、当社製品が他社の特許等を侵害する可能性もあり、その場合には事業展開の制約となる可能性があります。

##### ④ 原材料価格の変動について

当社の製品は、鋼材及び樹脂製品からなる部分があり、その仕入価格は市場価格の変動の影響を受けることがあります。需給関係の動向等が原材料価格の上昇を引き起こし販売価格への転嫁がうまく進まない場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### ⑤ 自然災害、事故災害に関するリスク

地震、台風等の自然災害や火災等の事故災害の発生により生産設備等が大きな被害を被り、部分的又は全面的に操業停止となり、生産及び出荷が長期にわたり停止した場合には、当社の業績が重大な影響を被る可能性があります。また、被害を被った生産設備等の修復のために多額の費用が発生し、結果として、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

- (5) 継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。

## 2. 企業集団の状況

当社グループは、当社及び連結子会社1社（赫菲(上海)軸承商貿有限公司）で構成されております。精密機器製造事業の単一セグメントであります。事業の傾向を示す品目別の事業内容は、下記のとおりであります。

当社は創業以来、一貫して直動機器及び精密部品加工の製造販売を行ってまいりました。

直動機器のリニアブッシュ（注1）においては、独創的な設計思想によりミニチュア化に成功し、以来長年に亘って工作機械や精密機械等、あらゆる分野に高品質な製品として供給を行っております。

精密部品加工においては、レース用のエンジン部品及び試作部品の製造を受託しております。大量生産を前提とした一般車両の部品製造と異なり、精密な加工技術が要求されております。

ユニット製品においては、直動機器及び精密部品加工で培った精密加工技術を発展させ開発したものであります。

### (1) 直動機器

主力製品リニアブッシュのボールベアリングは、機械装置の稼動部に用いられる部品であります。一般的に機械装置の稼動部は、金属と金属が接触し互いに擦り合いながら稼動いたします。金属同士が擦れると、そこには摩擦が生じ、金属の焼きつき、摩耗、破損などの現象が生じます。ボールベアリングは、接触面を鋼球が転がりながら移動することで、摩擦による影響を低減し、機械装置の寿命を延ばす役割を担っております。

ボールベアリングは機械装置に欠かせない要素部材であり、その種類は多岐にわたりますが、当社グループでは直線運動を実現するリニアブッシュの製造販売、球面軸受（注2）、ボールスプライン（注3）等の製造販売を行っております。

### (2) 精密部品加工

精密部品加工は、主にレース用エンジン部品及び試作部品の受託加工を行っております。レース用エンジン部品はより精緻な加工技術が要求されており、また、機動力で対応するなど利便性にも強みをもっております。しかし、昨今では、モータースポーツが縮小されたことにより、レース用エンジン部品等の加工が減少し、今まで培った固有技術を一段と高度に磨き上げ、次世代製品（環境・エネルギー・ロボット）の機能部品加工を行っております。また、当社のコア技術である球面加工技術や鏡面加工技術を駆使し、特殊材料・難切削材等の超精密部品の受託加工を行っております。

### (3) ユニット製品

一般的な多軸ステージ（注4）は、軸を積み重ねることで複数軸を構成しますが、当社ではパラレル機構（注5）を用いております。同一平面上に複数のアクチュエータ（注6）を配置した薄型シンプル構造を実現し、装置の小型・省電力化に貢献しております。

(注1) リニアブッシュ = Linear Bush

ボールベアリング用鋼球を利用した、直動的に移動する軸受

(注2) 球面軸受 = Spherical Rolling Joint

筐体と可動部材との間にボールを配置した構造の転がり運動をする球面軸受

(注3) ボールスプライン = Ball Splines

リニアブッシュのシャフト及び外筒の内径を溝付けし、ローリング方向に保持力を持たせた軸受

(注4) ステージ = Stage

単軸又は多軸の位置決め機構

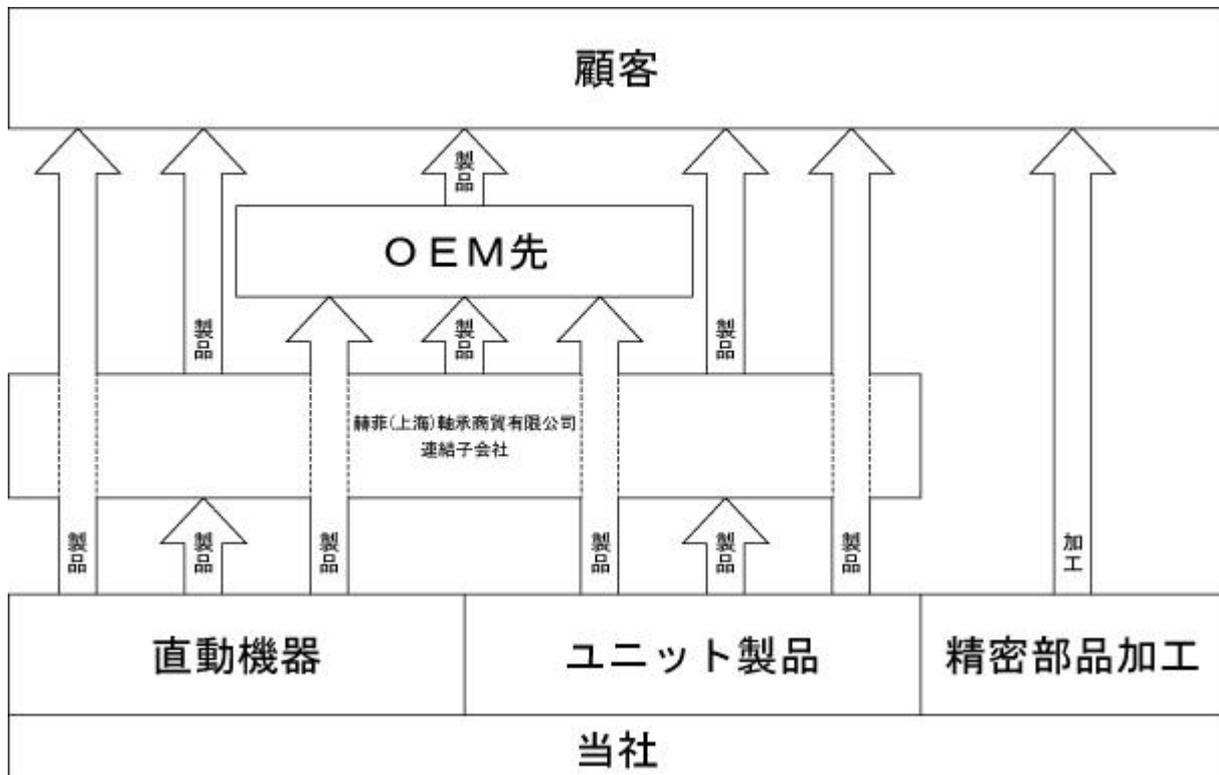
(注5) パラレル機構 = Parallel Mechanism

並列機構、並列に配置された複数のアクチュエータ(注6)を協調して動くように制御して、テーブルを目的の位置に移動させる機構

(注6) アクチュエータ = Actuator

駆動部と直線運動及び回転運動を行う被駆動部で構成された駆動機構

事業の系統図は、次のとおりであります。



### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「義の心」という企業理念のもと、創業以来円筒直動機器の専門メーカーとして常に新しいテクノロジーを追求し、多様化する顧客ニーズに適応する高品質・高付加価値製品を提供するとともに、経営の効率性と業績の向上を図ることで社会に貢献し、株主、取引先、従業員など全てのステークホルダーのご期待にお応えすることを基本方針としております。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、主な経営指標としてROE（自己資本利益率）及び売上高経常利益率の向上を目標としております。収益構造の改革、コストダウン、資産の効率的運用などによりその改善をはかり、企業価値の一層の向上を目指してまいります。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループでは、小径リニアブッシュのアジア拡販を目標に掲げ、製品の原価低減・品揃えに取り組んで参ります。また、継続して成長し続けるため、市場拡大が予想されるスマートフォンやタブレット端末に向けた産業用機械、電子部品産業への顧客ニーズに対応してゆき、主力の直動機器の製品力強化による売上・利益の確保を土台とし、ユニット製品の製品力強化による売上・収益の拡大及び精密部品加工における加工技術力の維持による売上・利益の維持拡大により、収益性の向上、財務体質強化、企業価値の向上を図ります。

直動機器の製品力強化については、最優先の経営課題と位置付け、アジア市場への販売展開及び、徹底したコスト削減を追求することを軸に、小径リニアブッシュの拡販を目指し、既存製品のQCD追求による付加価値向上、顧客ニーズを満足する付加価値の高い応用製品の開発に注力してゆきます。

ユニット製品の製品力強化については、製品標準化による短納期対応を広げ、当社グループが得意とする小型位置決めステージにおいて、小型化、薄型化、高精度化等の性能向上を徹底的に追求する一方、QCDを徹底的に追求することにより、小型位置決めステージにおける当社製品の優位性の一層の強化を図ってゆきます。

精密部品加工については、創業以来培ってきた固有技術を一段と高度に磨き上げ、また同時にコストを追求することにより差別化を図り、次世代製品（環境・エネルギー・ロボット）の機能部品加工の獲得を目指してゆきます。

#### (4) 会社の対処すべき課題

当社グループの主要市場である産業用機械、電子部品業界及び自動車関連業界を含めて、国内及び海外における生産動向の影響を大きく受けております。

当社グループは、このような事業環境の中で、受注確保を第一の課題と認識し、顧客の満足度向上のため、営業・技術・製造の三位一体体制の更なる強化による顧客対応力の向上、QCDの追求による製品力の向上、固定費、変動費の削減などを強力に推し進め、業績の早期回復及び経営基盤の強化に努めて参ります。

重点方針は以下のとおりであります。

- ① 生産性向上による生産能力増強とコストダウン
- ② QCDの徹底追求による顧客対応力の強化
- ③ 海外販売展開の構築・強化
- ④ 提案型営業による顧客ニーズに適合した新製品の開発

4 連結財務諸表等  
(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

		当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金		759,566
受取手形及び売掛金		513,697
製品		146,855
仕掛品		301,611
原材料及び貯蔵品		306,869
その他		40,573
流動資産合計		2,069,174
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物		1,777,331
減価償却累計額		△1,019,341
建物及び構築物(純額)		757,989
機械装置及び運搬具		1,042,995
減価償却累計額		△924,501
機械装置及び運搬具(純額)		118,493
工具、器具及び備品		208,086
減価償却累計額		△186,537
工具、器具及び備品(純額)		21,549
土地		1,063,504
リース資産		83,514
減価償却累計額		△4,646
リース資産(純額)		78,868
有形固定資産合計		2,040,404
無形固定資産		4,514
投資その他の資産		51,940
固定資産合計		2,096,859
資産合計		4,166,033
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金		216,444
1年内返済予定の長期借入金		151,208
リース債務		11,318
未払金		19,960
未払法人税等		6,215
賞与引当金		8,668
営業外支払手形		14,048
その他		32,965
流動負債合計		460,827
固定負債		
長期借入金		539,658
リース債務		67,766
退職給付引当金		51,478
役員退職慰労引当金		56,011
その他		750
固定負債合計		715,664
負債合計		1,176,491

(単位：千円)

当連結会計年度  
(平成25年3月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	717,495
資本剰余金	664,455
利益剰余金	1,604,148
自己株式	△183
株主資本合計	2,985,914
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	78
為替換算調整勘定	3,547
その他の包括利益累計額合計	3,626
純資産合計	2,989,541
負債純資産合計	4,166,033

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
 (連結損益計算書)

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	1,304,556
売上原価	954,112
売上総利益	350,443
販売費及び一般管理費	391,427
営業損失(△)	△40,983
営業外収益	
受取利息	46
為替差益	2,143
その他	902
営業外収益合計	3,092
営業外費用	
支払利息	7,136
営業外費用合計	7,136
経常損失(△)	△45,028
特別損失	
有形固定資産除却損	353
特別損失合計	353
税金等調整前当期純損失(△)	△45,381
法人税、住民税及び事業税	3,365
法人税等調整額	△10,602
法人税等合計	△7,237
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△38,144
当期純損失(△)	△38,144

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△38,144
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△4
為替換算調整勘定	3,726
その他の包括利益合計	3,722
包括利益	△34,422
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	△34,422

(3) 連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本	
資本金	
当期首残高	717,495
当期変動額	
当期変動額合計	—
当期末残高	717,495
資本剰余金	
当期首残高	664,455
当期変動額	
当期変動額合計	—
当期末残高	664,455
利益剰余金	
当期首残高	1,642,292
当期変動額	
当期純損失(△)	△38,144
当期変動額合計	△38,144
当期末残高	1,604,148
自己株式	
当期首残高	△172
当期変動額	
自己株式の取得	△10
当期変動額合計	△10
当期末残高	△183
株主資本合計	
当期首残高	3,024,069
当期変動額	
当期純損失(△)	△38,144
自己株式の取得	△10
当期変動額合計	△38,154
当期末残高	2,985,914
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	
当期首残高	82
当期変動額	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△4
当期変動額合計	△4
当期末残高	78
為替換算調整勘定	
当期首残高	△178
当期変動額	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	3,726
当期変動額合計	3,726
当期末残高	3,547
純資産合計	
当期首残高	3,023,974

(単位：千円)

		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期変動額		
当期純損失(△)		△38,144
自己株式の取得		△10
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)		3,722
当期変動額合計		△34,432
当期末残高		2,989,541

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前当期純損失(△)	△45,381
減価償却費	97,565
受取利息及び受取配当金	△65
支払利息	7,136
有形固定資産除却損	353
売上債権の増減額(△は増加)	△4,370
たな卸資産の増減額(△は増加)	15,775
仕入債務の増減額(△は減少)	△125,114
賞与引当金の増減額(△は減少)	△7,332
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2,290
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1,628
その他の流動資産の増減額(△は増加)	5,487
その他の流動負債の増減額(△は減少)	8,412
小計	△43,613
利息及び配当金の受取額	65
利息の支払額	△7,142
法人税等の支払額	△15,591
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△66,282</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の払戻による収入	10,000
有形固定資産の取得による支出	△111,451
有形固定資産の売却による収入	598
無形固定資産の取得による支出	△2,000
投資有価証券の取得による支出	△18
貸付金の回収による収入	80
その他	△16,557
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△119,348</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入れによる収入	301,000
長期借入金の返済による支出	△189,306
自己株式の取得による支出	△10
リース債務の返済による支出	△4,429
セール・アンド・リースバックによる収入	83,514
配当金の支払額	△65
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>190,701</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>1,141</b>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,212
現金及び現金同等物の期首残高	643,354
現金及び現金同等物の期末残高	※ 649,566

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社数 1社

連結子会社の名称

赫菲(上海)軸承商貿有限公司

当連結会計年度より赫菲(上海)軸承商貿有限公司の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度に関する事項

赫菲(上海)軸承商貿有限公司の決算日は12月31日であり、連結決算日(3月31日)との間には3ヶ月の差異があります。なお、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

② たな卸資産

a 製品及び仕掛品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(一部の製品、仕掛品は個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。)

b 原材料及び貯蔵品

月次総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産 (リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 31年

機械装置 11~12年

②無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

④長期前払費用

均等償却によっております。

なお、償却期間は5年です。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

③退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、期末自己都合要支給額から、中小企業退職共済制度より支給される退職金額を控除した額を計上しております。

④役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっています。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当連結会計期間における営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失に与える影響は軽微であります。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金	759,566千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△110,000 "
現金及び現金同等物	649,566千円

(セグメント情報等)

当社グループは、精密機器製造事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	478.84円
1株当たり当期純損失金額	△6.11円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期純損失金額(△)(千円)	△38,144
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る当期純損失金額(△)(千円)	△38,144
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,243

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

(1) 生産、受注及び販売の状況

①生産実績

当連結会計年度における生産実績情報を品目ごとに示すと、次のとおりであります。

品目の名称	生産高(千円)	構成比(%)
直動機器	1,192,347	83.9
精密部品加工	140,271	9.9
ユニット製品	87,988	6.2
合計	1,420,606	100.0

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

②受注実績

当連結会計年度における受注実績を品目ごとに示すと、次のとおりであります。

品目の名称	受注高(千円)	受注残高(千円)
直動機器	1,100,170	109,189
精密部品加工	137,475	4,237
ユニット製品	111,065	22,934
合計	1,348,711	136,360

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③販売実績

品目の名称	販売高(千円)	構成比(%)
直動機器	1,073,805	82.3
精密部品加工	140,271	10.8
ユニット製品	90,479	6.9
合計	1,304,556	100.0

- (注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)
THK株式会社	878,585	67.35

1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 役員の変動

① 代表者の変動

該当事項はありません。

② その他の役員の変動

該当事項はありません。